



青く澄んだ空と稲穂・夏の栃木県



No.47 (令和5年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のため誠実に
積極的に取り組む障害児者と
その家族を支援します

在宅生活の障害児者医療や
療育の提供に向けて

社会福祉法人鶴風会

理事長 鶴岡 広

いつの間にか、東京では在宅医療環境が、整備されてきているようです。私は、東邦大学の大森で、リハビリテーション科が開設された時より、月数回外来診療をさせて頂いております。当初は、障害児はNICUから、小児病棟へ転棟してしばらくしたのち、(時に数年)、地域の小児病院へ転院、申し込み順が回ってくれば療育を行うとされる医療施設へ入所となっていたように思います。しかし最近では、大学病院より病状が安定すれば直接在宅へ退院となっているようです。

西多摩療育支援センターでも、この頃は、総合医療機関から直接在宅へ退院となり、訪問診療を主とする診療所と訪問看護、バックアップとして地域の病院となっております。そして、当施設に専門的な療育が期

待されて外来に紹介受診が増えてきています。本年の厚生労働省中央社会保険医療協議会の資料でも、全国的に訪問診療は大幅に増加(在宅患者訪問診療件数は、令和元年から増加傾向で、令和4年度は平成27年の約1.5倍)、小児に対する在宅医療でも、訪問診療の算定回数は増加している。地域で差があるようですが、0から14歳では東京都や大阪府、神奈川県で算定回数が多い。また、小児科分野での訪問診療1回あたりの診療報酬は他科に比べて著明に高いのが特徴です。訪問看護においても、70歳以上の高齢者も増加していますが、乳幼児を含む30歳未満の若年層の利用者も増加している、令和元年と令和3年の比では、0から9歳で1.16倍、10から19歳で1.43倍、20から29歳で1.39倍となっており、年齢的な訪問看護の内容はわかりませんが、訪問看護指示書におけるリハビリ職が行う訪問看護の指示の有無は「あり」が28.3%で、職種は理学療法士が48.2%で最も多く、また、記載事項(指示内容)は、1日あたり実施時間平均48.9分、訪

1頁 在宅生活の障害児者医療や療育の提供に向けて
2頁 新しい執行部に期待と当法人への絶大なご支援を
3頁 東京小児だより
4頁 西多摩だより・行事
6頁 法人表彰式・入職1年目を振り返って
7頁 決算報告
8頁 オルフ工案内・バザー中止案内
寄附者名簿・寄贈者名簿

問回数、週平均1・6回でした。今後
も、生まれながらに重い心身障害が
あったとしても、在宅での生活が増え
て行くと思われれます。

障害を持つ児者が在宅で生活してい
くためには、単に病気ではない、必
要な医療機器の管理などだけではな
く、成長など年齢による変化していく
心身の機能、進学や就職など生活環境
の変化に対応していかなければなりま
せん。そのためには、多職種が連携し、
利用者である障害児者の情報を共有し
なければなりません。利用者の
情報の共通理解を促進するためには、情
報の言語化・数値化・画像などを伴え
ば、容易になると思います。利用者の
疾患情報に対する言語化・数値化など
は医療機関での情報提供で行われる
生化学や生理検査結果、服薬の内容な
どの添付が可能です。しかし、障害に
ついては難しい。特に利用者が重度の
心身障害になればなるほど困難が増す
と思います。例えば、「痙縮により四
肢体幹の関節の変形が著しく寝たきり
全介助、FIMセルフケア点数が全て
1点、大島分類1、超重症25点以上」
と言われても障害児者を専門とした者
しか、対象とした障害児者を想起する
ことができないでしょう。専門ではな
い方々に理解し情報を共有しやすくす
るためには、手足の動き一つにして
も、全身の個々の関節範囲を計測、関

節の制限が骨や関節の問題なのか・筋
肉が短くなっているためか・筋緊張の
ためか等々を丁寧に言語化もしくは数
値化し、説明する必要があると思いま
す。関節の動きの悪いところが多いほ
ど、計測・評価だけでも時間がかかり
ます。これは運動器機能障害の一部で
あり、これ以外にも、日常生活での各
種動作、姿勢保持の状況、栄養摂食嚥
下、心理面、介護面など心身障害の評
価は、障害が重度であればあるほど、
多岐にわたり時間を要します。

在宅生活をしている障害児者が安心
した医療や療育を受けるためには、多
職種の連携が必要です。多職種の連携
を行うためには、十分な情報共有が必
要です。そのために、療育専門施設と
して私たちが、利用者の障害に関して
評価し、障害児者を支える色々な方々
に、分かりやすく共有連携しやすい情
報を提供することも、大事な使命と思
います。子供は成長し、進学・就職な
どにより生活環境も変化します。障害
児者の障害状況もこれにより変化しま
す。経時的・定期的に、そして適切な
時に、理解してもらい易い確実な情報
をいかに早く、障害児者の援助者や関
連機関に提供することが重要です。限
られた診療時間の中で行うために、
鶴風会として、様々な方法を考え出す
必要があります。皆様方のご意見、ご
指導のほどよろしくお願いいたします。

新しい執行部に期待と 当法人への絶大なご支援を

社会福祉法人鶴風会後援会
会長 青木 継稔

本法人鶴風会東京小児療育病院は、
来年に創立60周年を迎えます。また、
西多摩療育支援センターも満20周年と
なります。東京小児療育病院は、当時
日本において数少なく遅れていた肢体
不自由児・脳性小児マヒの療育施設と
して設立されました。東邦大学医学部
第1回卒業生の龍智恵子先生を代表し
て多くの同級生・後輩等の強力な支援
のもとに、東京小児療育病院を創立さ
れたことは衆知の事実です。国や東京
都の応援もあり、学校法人東邦大学も
強く支援して参りました。社会福祉法
人として幾度かの存続の危機を乗り越
えて、現在は重症心身障害児者（以下、
重心児者）の療育施設として社会貢
献していきます。重心児者の医療・療
育・生活・福祉等を情熱を持って色々
な専門性を発揮して積極的に関わって
下さる各職種の方々に支えられていま
す。各専門職の皆様から感謝申し
上げます。

私設故に、経営的には歴代理事長の
責任のもとに理事会・評議員会が組織
され、運営されています。診療責任は
病院長が担い、院長も経営責任を持ち
ます。本法人にユニークな組織として
「後援会」があり、法人の事業を応援
しています。

今年四月に本法人の理事長、病院長、
西多摩療育支援センター長の人事異動
があり、理事会・評議員会にて承認さ
れました。

松尾賢二理事長から鶴岡広理事長に
なりました。松尾理事長は中里厚理事
長の後継者として六年間の任務を全う
されました。松尾理事長は、ほとんど
コロナ流行期であり大変でした。院内
感染も発生し診療を制限されるとい
う経営危機状態に陥りましたが、経費削
減等細かいところまでチェックして赤
字を克服した手腕は高く評価されるも
のでした。さらに、電子カルテ化やM
RⅠ導入を成し遂げられました。素敵
なジョークを入れたお話は、人を魅了
し豊富な知識や多方面にわたる提案を
示されたり、自ら細やかな作業もされ
ました。歴代理事長の中でも名理事長
の一人でした。

新理事長 鶴岡広先生

新理事長は、三月まで西多摩療育支
援センター長であった鶴岡広先生です。
鶴岡先生は、整形外科医であり、リハ
ビリテーション医学・医療の専門医で
す。重心児者の医療・福祉等には整形
外科医の存在が重要です。整形外科医
は多いのですが、重心児者のリハビリ
テーション医学を志向する医師は極め

て少ないです。東京小児療育病院開設の頃に、石原昂先生という整形外科医が関わって下さった時を懐かしく思い出します。整形外科医の立場から重児者医療を考慮しながら本法人の経営に新理事長としての手腕を発揮して下さるものと大いに期待しています。

東京小児療育病院長は、椎木俊秀先生から佐々木征行先生に交代しました。椎木先生は、永年にわたり病院長をされ、診療を通して重児者とそのご家族により添われて支援されて参りました。また、医師やコメディカルスタッフの診療・教育にも尽力されました。経営的センスも高く理事長を支えられました。

新院長 佐々木征行先生

佐々木征行新病院長は、小児神経専門医です。数年前の日本小児神経学会を主催されています。国立精神・神経医療研究センター病院小児神経診療部長を経て、本法人に来て頂きました。米国NIHへの留学も経験されています。先生も有馬正高先生門下生です。椎木先生は後任として佐々木先生をお招きする構想を持たれ、私の方に相談され、私も招聘に関わらせて頂きました。椎木先生は、佐々木先生に診療面のみならず研究面や若手医師の教育、また若手医師を招くことへの期待をされています。佐々木先生は国立精神・神経セ

ンターにおける重児者施設の永年の診療・研究、実績もあり、大いに期待したいと思えます。

新センター長 清水教一先生

西多摩療育支援センターは、センター長であった鶴岡先生が理事長となったために、新センター長清水教一先生を迎えました。鶴岡先生のことばは理事長のところで記述しましたのでここでは省略します。清水先生は、私のいた小児科学教室の後継の教授でした。また、若き頃に国立精神神経センターのレジデントとして佐々木征行先生と同期であったとのことであり、有馬門下生でもあります。米国セントルイスのワシントン大学小児科に三年間留学しています。小児神経学、発達障害や先天代謝異常を専門としています。

新理事長の鶴岡先生、新病院長の佐々木先生、西多摩療育支援センター長の清水先生はいずれも同年代同年齢です。夫々役職は違いますが、同じ社会福祉法人鶴風会の中の責任ある立場になりました。切磋琢磨して、本法人の発展に最大限のご尽力を賜りたくご活躍を期待したいと思います。

後援会の重要な任務の一つに、スタッフを応援することがあります。新執行役員を応援するとともに全職員を支援したいと思えます。

後援会の最重要課題は、如何に寄附金を多く集めるかということです。東

京小児療育病院は、約60年前の建物が多く耐年数が過ぎていますが、建て替える資金がありません。日頃の経営面の難しさもあり、建て替え資金を残すことが出来ていないのが現状です。いつも心苦しいですが、社会福祉法人鶴風会へのご寄附をどうぞよろしくお願い申し上げます。

4年目に入った新型コロナウイルス感染症の現況と対策

東京小児療育病院
院長 佐々木 征行



新型コロナウイルス感染症の流行が始まって今年の春で丸3年を越えましました。厳しい感染対策を実施してきたにもかかわらず、この間に当院でも何回かクラスターが発生したことがありました。そのたびに短期入所、通所、外来受け入れなどに制限をかけるを得ず、利用者の皆様にはご迷惑をおかけし、経営面でも厳しい状況に置かれることになりました。

私が入職した4月には幸い流行の勢

いはかなり収まり、2023年5月の連休明けによやく感染症法上の位置づけが2類から5類に引き下げられました。新型コロナウイルスの流行も4年目に入ることになり、新たな脅威というよりは常にあるものとしていわゆる「ウィズコロナ」として、以前から実施してきた活動を新たな時代に合わせて徐々に戻しています。

当院では、職員の東京都集積的PCR検査は週1回のペースで実施継続しておりますが、利用者の短期入所前のPCR検査は終了し、短期入所・通所・外来・リハビリテーションなどはコロナ前通りの稼働に戻り継続しております。入所者の外出行事も再開しました。職員や入所者に陽性者が発生した場合の病院・病棟としての新たな対応策や短期入所者の通所参加基本パターンを作成し実行しています。ご家族の直接の面会については、ご予約の上、病棟内で15分間以内として再開しております。

職員の感染予防対策は、定期的PCR以外に、標準予防策の徹底、出勤時のマスク着用と体温測定・体調確認および濃厚接触者票記載、各部屋の換気とCO2濃度モニターの使用などを継続しています。

花火大会、みどり祭りなどの行事も再開する方向で準備しておりますが、7月から8月にかけて感染流行の兆し



西多摩療育支援センター
センター長 清水 教一

西多摩だより

があり、ご家族の参加およびボランティア等の外部参加は残念ながら中止とし、小規模での再開となる予定です。近隣の方々を含め皆様お楽しみみのバザーは今年も実施しないことになりました。7月から8月にかけては、利用者や職員にも感染者が散発的に認められています。しかし感染予防策を徹底することによりクラスターを発生させることなく経過しております。このまま院内での流行を見ないよう職員一人ひとりが自覚して対処していただけることを強く願っております。

以上当院の最近の新型コロナウイルス感染症に関する状況を報告しました。今後ともよろしくお願いたします。

西多摩療育支援センターは、上代継診療所、重症心身障害児・者を対象として通所による支援を行っている上代継在宅地域支援センター、そして主に身体障害者の生活支援を行う障害者支援施設 築で構成されています。そして様々な職種の職員の仕事によって成り立っている施設です。多職種がチームワーク良く連携していくことで、スムーズな質の高い運営が可能となります。そのためには、時に仕事以外の場面で、職種の枠を超えて集い、話をしてお互いを良く知ること、そして仕事場において気楽に話ができる関係を構築することがとても重要になってきます。本年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行を境に、世間では様々な対面での行事の再開が進められてきました。当センターでも6月16日（金）の夕方に施設内のホールで「新入職者歓迎会」を4年ぶりに開催しました。この3年間に新たにセンターの職員となった方々を中心に45名が一堂に会しました。そして飲み物（アルコールはありませんでしたが）とお弁当を楽しみながら、皆でいろいろ語り合つことができました。特に「新入職者」にはお一人ずつ自己紹介と近況報告をしていただきました。皆様の様々な、時には意外と思われるよ

うな「顔」を知ることができました。かくいっこの4月から皆様の仲間に入れていただいた、最も新米な私も自己紹介をさせていただき、普段あまり接点のない皆様にも名前と顔と、そして趣味なども覚えていただけたのかなと思っております。今後も新型コロナウイルスの感染状況等をみながら少しずつにはなると思いますが、この様な機会を作っていければと考えております。当センターは、2024年度に開設20年目の節目の年を迎えます。それに少し先立ち、2024年2月17日（土）に「あきるのルピア」の3階ルピアホールを会場として「西多摩療育支援センター開設20年記念事業」を開催することとなりました。この事業でのメインイベントは「地域連携」をテーマとしたシンポジウムです。シンポジストとして吉野邦夫先生（上代継診療所）、田中哲先生（子どもと家族のメンタルクリニック院長）、そして水野雅文先生（東京都立松沢病院院長）の3名の先生方を迎え、小児期から成人期までの各年代での地域連携の実際と今後の課題について、ご講演いただく予定にしております。もしお時間がありませんでしたら、ぜひの間だけでも来ていただければと思います。なお、対面だけでなくWeb配信を行う形（つま

りHybrid形式）で行つことも考えております。ご自身の職場あるいはご自宅からでも気楽に参加いただける会に出来ればと思ひ、現在鋭意準備を進めております。

端午の節句

「鯉のぼり」

東京小児療育病院 看護・生活支援部
生活支援担当係長 富永 健雄



「鯉のぼり見つけた！」

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「2類相当」から「5類感染症」に移行されました。移行に伴い当院の日常における基本的な感染対策についても制限緩和がおこなわれ、行事・外出・外泊・面会に関してはコロナ禍以前の形に少しずつ戻りつつあります。

看護・生活支援部では利用者と職員の方々全員で参加できる催し物として昨年の年末に「もちつき」を開催しま

した。今年度は第1弾として「端午の節句・鯉のぼりを泳がす」を企画しました。

鯉はとても生命力があり、大きく丈夫で清流だけでなく、池でも沼でも生きられる魚です。そんな鯉をモチーフとした鯉のぼりは、中国の神話や伝説に登場する「龍」が関係しているといわれています。中国では、黄河の上流にあるとされる龍門という滝を鯉が登ると龍になるという「登龍門伝説」があり、人生という流れの中で遭遇する難関を鯉のように突破して立身出世してほしいという願いが込められています。私たちも鯉のぼりの「登龍門伝説」の願いにあやかり、これからも皆が一丸となって新型コロナ感染症という困難を突破し、利用者が健康と安全に満ちた生活を送れますように、この思いを込めて病院中庭に鯉のぼりを泳がす計画としました。

最初に鯉のぼりを集めることから始めました。近年、鯉のぼりをご自宅で泳がすご家庭が少なくなっている傾向もあり、実際に集まるのかの不安もありました。しかし病院職員全体に今回の趣旨と併せ、鯉のぼりのご寄附を募ったところ、大小様々な色合いの鯉のぼりを合せて20匹程、いただくことができました。

いよいよ鯉のぼりの飾り付けです。

病院中庭を南北に横断するように病院本館2階ハルコニーから2階病棟のハルコニーにかけて4本のロープを架けました。2メートル級の鯉のぼりは家族ごとに吊るし、5メートル級の手描き鯉のぼりはその威風堂々とした佇まいを見てもううためた胴体にロープを通して吊るすようにしました。青空の中、約20匹の鯉のぼりが一斉にバタバタと風になびいて元気に泳ぎ始めます。その姿を見守る利用者・職員からは歓声があがり、時に拍手がおきる程でした。当初、鯉のぼりは「ごどもの日」までの展示として計画していましたが、利用者や職員からの「もっと見ていたい」とのご意見を受け、5月18日まで延長となりました。延長された期間においてもハルコニーや病院中庭にて利用者や鯉のぼりの泳ぐ姿を見て楽しんでいる様子がありました。

登龍門の話を『鯉のぼり』という形で、青空を泳がせるという発想は、世界に類を見ない日本人独特の感性です。新型コロナ感染症は終わった訳ではありませんが、今後も正しい知識と根拠を基に感染対策に臨み、一方で今回の鯉のぼり企画のようなダイナミックな発想をもって、利用者の方々の生活が豊かなものになるよう支援を続けていきたいと思います。

上代継在宅地域支援センター 児童発達支援センターの家族会

西多摩療育支援センター
生活支援部 通所係長 佐藤 優

7月15日(土)に児童発達支援センターちゅうりつぶ組の行事「家族交流会」を行いました。昼食を伴ったの開催は実に3年ぶりとなりました。当日は6家族、総勢23名の方が集まり、「デイキャンプ」のテーマ通りとても賑やかな雰囲気が始まりました。まずはわらべ歌体操で身体をほぐしますが、いつもとは違い兄弟姉妹と一緒にペアを組み、お互いに楽しそうな表情で行いました。それでは各コーナーを紹介します。

「リアル野球盤」大谷・村上・又トバーの障害物が行く手を遮る中、小さい手でバットを握ってスイング！
コロコロコロとボールを転がし・・・ホームラン！は出ませんでした。両軍とも2塁打を連発し、好勝負を繰り広げていました。

「モルック」皆さまご存じ！モルックを投げてスキットルに当てて先に50点取ったチームの勝ちというスポーツです！しかし、本物は少し難しいので、ペットボトルに子どもたちが好きな

キャラクターを貼り、鈴など音が鳴るものを入れてスキットルの代わりにして楽しみました。

「魚釣り」磁石が餌のSDGs的にも魚にも優しい魚釣りでした。ただ今回、魚には最強のライバルを用意させていただきました、それはお菓子！これには子どもたちも大興奮で制限時間も忘れるくらいに集中していました。

「オリジナル缶バッジ作り」好きな色を選び、模様や絵を描いてガシャコンッ！とレバーを倒して、世界に一つだけのオリジナル缶バッジを作りました！(大人の方のほうが真剣だったような・・・)

どのコーナーでも、普段みることのできない親子・兄弟姉妹の時間を垣間見ることができ、とても心温まりました。昼食は理事長の特製焼きそばをみんなで食べてお腹も温まり、楽しい一日となりました。



「おさかなつれたよ」

令和五年度 鶴風会表彰

当法人事業に貢献してくださる方々の功績を称え、令和五年度鶴風会表彰を行いました。受賞者の方々には、これまでのご尽力に心より感謝いたしますとともに、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

永年勤続表彰（敬称略）

勤続四十年	理学療法士 丸森 睦美	生活支援員 野島 雅裕	生活支援員 成田 友樹
勤続三十五年	理学療法士 森 智子	生活支援員 久保秋 聖	生活支援員 高橋 勇哉
勤続二十年	看護師 伊藤みゆき	薬剤師 吉田 陽子	生活支援員 長嶺 健也
	生活支援員 如名根口美保子	事務 石井 昌之	生活支援員 臼田 葉月
	生活支援員 瀧 広明	生活支援員 菊池 綾	生活支援員 市川 貴大
	生活支援員 小山田救人	生活支援員 松田恵美衣	生活支援員 成田 美鈴
	理学療法士 矢野 悦子	生活支援員 和田 崇義	生活支援員 滝田 将平
	調理師 栗澤 康夫	理学療法士 早川 悠乃	生活支援員 木下 幸恵
勤続二十五年	看護師 吉田 武	臨床工学技士 佐原 要	生活支援員 松田恵美衣
	診療放射線技師 片口 公	言語聴覚士 龍山 飛鳥	生活支援員 和田 崇義
	理学療法士 川井まさよ	心 理 川瀨三和代	理学療法士 森 智子
	作業療法士 住田多恵子	言語聴覚士 泉 幸枝	
勤続二十年	看護師 鶴岡 広	看護師 黒坂 有加	
	医師 赤星 恵子	看護師 中井 基喜	
	看護師 榎本 紀恵	看護師 陶山 秀幸	
	看護師 藤木真由美	看護師 河内 千春	
	看護師 馬場美那子	生活支援員 内山 祥子	
	看護師 占部 友一	生活支援員 宮下 友佑	
		生活支援員 碓井 友美	

入職1年目を振り返って

理学療法士 森 智子

私は昭和63年4月から当院で理学療法士（以下PT）として働き始めました。当時は東京小児療育病院が肢体不自由児施設で、みどり愛育園が重症心身障害児施設になっていて、私は東京小児療育病院に配属されました。

当時の東京小児療育病院は東病棟と西病棟の2病棟で、東病棟には乳児、幼児、西病棟には幼児、小学生の子ども達が生活していました。当時の西病棟には、杖歩行や這い這いで移動する子ども達、車椅子を自走して移動する子ども達がいました。学齢児には、会話の出来る子どもが多かったです。新人だった私は、半年間は病棟の利用者さんのみ10名位担当しました。まずは子ども達とコミュニケーションをとる、良好な関係作りを心がけました。前担当者から引き継いだ理学療法を実施しましたが、最初はイメージしたようにはうまくいきませんでした。先輩PTに相談したり、先輩のハンドリングや治療場面の設定を見様見真似で試し、試行錯誤の繰り返しでした。うまくいかないことの方が多くても、時々成功した時にはとても嬉しかったです。

当時、入所児は幼児や学齢児だったので、病棟では保育やレクリエーションを日課として行なっていました。活動と一緒に参加して、姿勢作りや運動をサポートしました。新人の頃は病棟に入る時間も多く、子ども達の生活の流れをじっくり見ることも出来たのも良い経験でした。また、当時は運動会や遠足などの行事に新人のりハ職員も参加していました。運動会では育務課（現・生活支援科）の職員と一緒に司会を拝命し、無事終了するまで緊張していたのを覚えています。遠足では西武園ゆうえんちに行きました。担当の子どもと一緒に園内を散歩したり遊具に乗ったり楽しく過ごしました。通常の業務とは違う貴重な体験だったと思います。

現在入職36年目に突入しましたが、初心を忘れず基本に忠実に自分出来ることをしっかりと行い、集大成にしていきたいと思っています。

現在入職36年目に突入しましたが、初心を忘れず基本に忠実に自分出来ることをしっかりと行い、集大成にしていきたいと思っています。

社会福祉法人 鶴風会 令和4年度 事業活動計算書

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部			
サービス活動収益計	4,432,203,213	4,326,368,601	105,834,612
サービス活動費用計	4,416,691,586	4,353,151,018	63,540,568
サービス活動増減差額	15,511,627	-26,782,417	42,294,044
サービス活動外増減の部			
サービス活動外収益計	36,879,032	29,684,058	7,194,974
サービス活動外費用計	3,100,723	3,880,170	-779,447
サービス活動外増減差額	33,778,309	25,803,888	7,974,421
経常増減差額	49,289,936	-978,529	50,268,465
特別増減の部			
特別収益計	42,204,868	142,581,371	-100,376,503
特別費用計	39,762,909	333,199,665	-293,436,756
特別増減差額	2,441,959	-190,618,294	193,060,253
当期活動増減差額	51,731,895	-191,596,823	243,328,718
繰越活動増減差額の部			
前期繰越活動増減差額	1,283,525,976	1,426,642,799	-143,116,823
当期末繰越活動増減差額	1,335,257,871	1,235,045,976	100,211,895
基本金取崩額	0	0	0
その他の積立金取崩額	17,500,000	108,480,000	-90,980,000
その他の積立金積立額	204,000,000	60,000,000	144,000,000
次期繰越活動増減差額	1,148,757,871	1,283,525,976	-134,768,105

社会福祉法人鶴風会では、経営の透明性確保を
 するため、社会福祉法に基づき情報を公開して
 おります。

決算報告

社会福祉法人 鶴風会 令和4年度 資金収支計算書

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支			
事業活動収入計	4,379,289,000	4,469,082,245	-89,793,245
事業活動支出計	4,186,482,000	4,181,079,972	5,402,028
事業活動資金収支差額	192,807,000	288,002,273	-95,195,273
施設整備等による収支			
施設整備等収入計	33,720,000	38,132,506	-4,412,506
施設整備等支出計	140,245,000	142,203,103	-1,958,103
施設整備等資金収支差額	-106,525,000	-104,070,597	-2,454,403
その他の活動による収支			
その他の活動収入計	96,330,000	103,749,305	-7,419,305
その他の活動支出計	163,092,000	281,958,290	-118,866,290
その他の活動資金収支差額	-66,762,000	-178,208,985	111,446,985
予備費支出	0	0	0
当期資金収支差額合計	19,520,000	5,722,691	13,797,309
前期末支払資金残高	1,724,812,377	1,724,812,377	0
当期末支払資金残高	1,744,332,377	1,730,535,068	13,797,309

社会福祉法人 鶴風会 令和4年度 貸借対照表

勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	2,028,998,467	2,138,542,875	-109,544,408
固定資産	4,254,341,922	4,245,010,691	9,331,231
基本財産	2,247,684,603	2,359,378,004	-111,693,401
その他の固定資産	2,006,657,319	1,885,632,687	121,024,632
資産の部合計	6,283,340,389	6,383,553,566	-100,213,177
負債の部			
流動負債	520,241,654	648,544,238	-128,302,584
固定負債	1,397,848,133	1,388,900,171	8,947,962
負債の部合計	1,918,089,787	2,037,444,409	-119,354,622
純資産の部			
基本金	1,705,794,456	1,705,794,456	0
国庫補助金等特別積立金	771,669,731	804,260,181	-32,590,450
その他の積立金	739,028,544	552,528,544	186,500,000
次期繰越活動増減差額	1,148,757,871	1,283,525,976	-134,768,105
(うち当期活動増減差額)	51,731,895	-191,596,823	243,328,718
純資産の部合計	4,365,250,602	4,346,109,157	19,141,445
負債及び純資産の部合計	6,283,340,389	6,383,553,566	-100,213,177

社会福祉法人鶴風会

チャリティーコンサート～オルフェの会～

当法人後援会主催の歳末チャリティーコンサート「オルフェの会」を4年ぶりに開催することになりました。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。会費の一部は社会福祉法人鶴風会の発展に寄与させていただきます。

ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

日時 令和5年12月3日(日曜日)
 場所 新高輪プリンスホテル 国際館パミール
 会費 2万円(予定)
 内容 2部構成になっております。

①池田直樹・バス・バリトン、池田早苗・メゾ・ソプラノ
 ②落語 出演者 三遊亭 楽生 どうぞご期待ください。

申込み 社会福祉法人鶴風会後援会
 事務局 石井 昌之・熊井 愛斗 宛
 電話：042-561-2521 FAX：042-566-3753

社会福祉法人鶴風会
チャリティーバザー
開催中止のお知らせ

チャリティーバザーを令和5年10月22日(日曜日)に開催する予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて検討した結果、今年度も「チャリティーバザー」は中止することにいたしました。楽しみにして下さった皆様には、ご迷惑をお掛けして誠に申し訳ございません。ご理解のほど、何卒よろしくお願い致します。

社会福祉法人鶴風会へ

寄附者ご芳名

令和5年3月～令和5年6月
212名(五十音順・敬称略)

青木 継稔・青木万智子・青山 幸生
青木りう子・青木 千津・青木 美澄
阿部 正和・安部 良治・荒井 陽子
荒木眞佐子・秋山 尚美・浅井 浩司
浅沼 良寛・浅川 和子・浅田 栄
朝日恵美子・有村 章・石塚 博子
伊藤 正俊・伊藤 文子・伊豆蔵英明
井上 美俊・一林 繁・逸見 仁道
稲垣 登稔・石川 至・石川稚佳子
石田 里子・飯国紀一郎・飯国 弥生
飯国洋一郎・飯倉 憲子・瓜田 純久
海野 俊雄・漆畑 修・上田 建
梅田みほ子・海老根伊佐子・江川 惠基
江部 寛・奥住 一雄・岡田 倫明
小原 明・小川 加奈・小川 正俊
小川美佐江・小川 武彦・小野寺仁至
大江 容子・大高 敏子・大塚 周二
大島 剛・大島 範子・加藤まこと
加藤祐之助・加藤 葉子・河上 修
金子 明寛・金親 正敏・甲斐 俊吉
鹿島田忠史・狩野 修・春日井正典
勝見 千明・勝瀬 明子・神田 悠美
川島 福恵・川本 薫・鬼頭 秀明
北原 信三・北村 清明・木村 裕

久保 初美・久保田伸枝・黒瀬 嘉幸
黒木 貴夫・倉根 理一・向山 秀樹
向山 徳子・小西 冬海・小泉 美子
小島 榮吉・後藤加寿美・境 敏秀
佐々木裕美・佐藤 重雄・佐藤 詳
佐藤 信秀・佐藤 清子・佐藤 宣
佐藤 中・坂本真理子・坂本 勉
西條 公勝・齊藤 眞一・先山 隆司
澤井 寛人・齋藤 彌・塩野 久子
塩野 則次・志村 博基・志鳥眞理子
首藤さち子・正田 嘉子・正田 穂積
清水 一輝・島田 長人・島田 敏雄
炭山 嘉伸・炭山 朋子・周郷 延雄
杉 薫・関口 瞳・清宮 祥子
館田 一博・高木 利明・谷藤 龍正
竹内 忍・田村 恵子・田中 政信
高橋比路美・高波眞佐治・高野 恭子
月本 一郎・月本 伸子・築山 巖
塚原 洋子・堤 俊一郎・戸谷 夏子
鳥居 尚隆・永山 隆一・永澤 康滋
中園 宏紀・中園奈津子・中岡 義明
中村 孝裕・中村志津子・中村 豊
中谷 尚登・中島 桂子・中澤 一治
長岡 貞雄・長岡 理大・長嶋起久雄
並木 温・西宮 常代・西村 千秋
野見干鶴子・野口 隆敏・野上和加博
野村 直子・野田 文子・花岡 晋平
橋口正一郎・橋口 亮・橋口 玲子
原 一男・原田千鶴子・原田裕美子

早原 千鶴・早川 浩市・長谷川和寿
林 佳子・土方 淳・樋口志津子
蛭田 啓之・平野 盛久・細江 伸央
星出 陽子・本多 淳・本多 拓朗
松原 龍弘・牧田みどり・牧野 紘美
宮崎 元伸・三宅 三・水吉 秀男
村井 貞子・武者 芳朗・守田 正三
森 克彦・望月 祐一・望月 陽子
安土 達夫・山口 美穂・山崎 公子
山川ふみ子・山村 憲・山田耕一郎
山本 温子・山本 高裕・谷野 徹
吉田 宏重・吉田 友英・与田 仁志
若田 宣雄・渡邊 嘉行・渡邊 正志
渡邊 享子・渡邊 善則
株式会社・サービス
株式会社遠藤商会
医療法人社団和光会
株式会社クリーンワーク
株式会社コイワイ
株式会社コンテス
株式会社東新商会
ファイナンシャルアライアンス株式会社
西東京支店 杉林 勤
公益財団法人 星総合病院 副理事長 森 東
公益財団法人 星総合病院 病院長 渡辺 直彦
通所保護者会 匿名

社会福祉法人鶴風会へ

寄贈品ご芳名

多くの方々に御寄贈いただき
有難うございました
令和5年3月～令和5年6月
4名(五十音順・敬称略)

(有)クリーンワーク 代表取締役 樽谷 おむつ

外来利用者家族 衛生材料
病棟職員 タブレット端末
東京都福祉保健局 N95マスク
防護具
グーグル



病棟職員からの寄贈 (タブレット端末)